

しゃくなげ

学校の教育目標 志をもち 仲間とともに創りだす生徒



「七転八起」の1学期を振り返る

校長 福井敏彦

生徒会スローガン「七転八起」は学校の教育目標具現に向けた頑張り方を見事に表現しています。1学期を「七転八起」と「4本柱（あいさつ）」から振り返ります。

ものすごく大きい挑戦はできなかったけど・・・

「どちらかといえばできた」54%の回答理由に「ものすごく大きい挑戦はできなかったけれど、小さな挑戦をたくさんできたのでよかった。」という記述がありました。まさにその通りで、誰もが日々小さな挑戦を選択しながら生活しています。

例えば、自分の考えがもてたとき「誰かが発言するからまあいいか」「自分の考えをみんなに伝えて課題追究しよう」とどちらかを選択しています。小さな挑戦ができた人は豊かな学びを得ています。

「まあいいか」で終わらず「自分の考えを伝える」こと、それが「七転八起」でめざす姿です。

自己評価、本当はもっと高い？

先日体育「バレーボール」のリーグ戦に職員チームで参加しました。どの学年も、チームの課題を意識し、お互いに声をかけあう姿がみられました。特に失敗したときに「ドンマイ」「切り替えて」と、次にうまくプレーできるよう声をかける姿に感心しました。

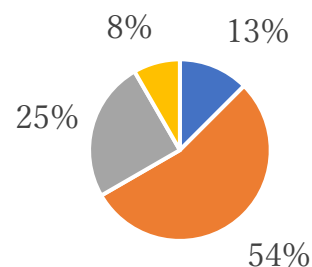
バレーボールで失敗をしない子はいません。技能面でうまくいかなかった失敗もあれば、「お見合い」など、お互いに一歩踏み出せなかった失敗もあります。その都度「次こそは」と志をもち、技能面を意識したり、お互いのポジションを確かめ合う声かけをしたりする姿はまさに「七転八起」の姿そのものでした。バレーボールの姿を想起したなら、自己評価はもっと高くなると思います。

「先がけあいさつ」の基本は「目が合うこと」

4本柱（学習・あいさつ・合唱・掃除）の中で一番評価が低かった項目が「あいさつ」です。「外から職員室にあいさつすることができたけど、廊下ですれ違ったときにあいさつができなかった。」という記述がありました。バス降車付近で立っているときにもあいさつが少ないことを感じていました。

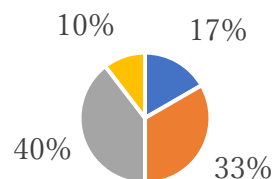
そこで朝、生徒玄関入口で待つようにしました。すると、ほとんどの生徒が先がけあいさつをするようになりました。以前との違いは「目が合うこと」です。会釈する子も増えました。廊下ですれ違うときも、目を合わせることから始めるとよさそうです。

「七転八起」を意識し、自分から挑戦することができた



- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない

いつでも誰にでも「先がけあいさつ」をすることができた。



- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない